

日本計量新報

計測と科学
毎週日曜日発行
日本計量新報社

東京都千代田区神田錦町 3-11-8
(武蔵野ビル)
〒101-0054 TEL 03-3295-7871
FAX 03-3295-7874
支局 大阪市北区大淀北 1-3-18
〒531-0077 TEL 06-6451-4495
振替口座 00140-5-12935
購読料年間 25,000円 (消費税別)

Yamato

清潔な環境を創造する
完全防水形デジタル上皿自動はかり

- 防水・防塵等級IP68準拠
- オールステンレスボディ
- お手入れが簡単なサニタリー設計



UDS-1VII/N-WP

大和製衡株式会社

電話 明石 (078) 918-5577

今週の主な記事

- ① ブロック会議相次ぎ開催第4回計測標準フォーラム
- ② メトラ・トレドがJCSS校正業務再開
- ③ JQAフォーラム 企画の計量記念行事(ほか)
- ④ 特集・とうきょうの計量
- ⑤ 計量法見直し説明会詳説(1)
- ⑥ 私の履歴書・齊藤勝夫(20)
- ⑦ 計量と化学・誌
- ⑧ A&B新リース・テストキヤンペン・ミット設置薬液(ほか)

2つのブロック会議相次ぎ開催

東北は発表募集に苦勞、関東甲信越は医療用ばかり供給がカギ

ともに200名以上が参加

東北および北海道の計量協会の集まりのブロック会議と関東甲信越の計量協会ならびに計量士会の集まりのブロック会議が10月中旬に相次いで開かれた。平成18年度東北・北海道計量大会(第55次東北北海道計量協会連合会総会と連動して開催)は、10月11日(水)午後には福島市飯坂町の摺上亭大鳥を会場に会員等関係者200名が参加して開かれた。平成18年度関東甲信越地区計量協会・計量士会連絡協議会は、10月17日(火)午後には横浜市内などみらいのヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルを会場に関係者250名が参加して開かれた。

両会議とも演題は計量制度と国際状況

2つの会議ともに行行政関係あるいはその経験者

の30分あるいは50分の話しが講演と題して行われた。

東北・北海道のブロック会議では計量行政案の

篠内雅幸室長が「計量制度見直しの概況」の題で、表題どおりの話をした。室長は国の規制の在り方は事後規制を基本として構想されるようになっているので、計量法とその規制も事後規制の方向が取られることになると思した。

計量行政が自治事務になったために混乱が生じるようになったから機関委任事務に戻せという議論が



上皿デジタルはかり
連続使用5,000時間の省エネ設計
TANITA
TLC-200
定価23,800円(税別)

現場は苦勞

関東甲信越のブロック会議では国際度量衡委員を長く務めた(社)日本計量振興協会会長の飯塚幸三氏が「計量の社会的使命―その変遷と計量法をめぐる議論を参考に」の題で、計量制度の国際的な新しい動きを中心に説明が行われた。

コンテスト募集に

予定のVIM(国際計量基本用語集)にも、そういった背景を反映した概念が、新たに導入されている。現況を紹介するとともに、最近の計測標準の役割と活動の広がりを概観する。

開催概要

【日時】11月22日(水)10時～17時30分(懇親会17時40分～19時)

【会場】大田区産業プラザPiO(東京都大田区南蒲田1-20-20、京浜急行線京急蒲田駅下車徒歩4分)

【申込方法】ウェブサイトに(<http://www.nim.jp/news/event/>)

計測標準フォーラム合同講演会

4度目の共同開催は11月22日、東京で最新の計測情報を広範囲に集約

計測標準の進歩を目的にしたボランティア団体である日本NCSLIと、(独)産業技術総合研究所計量標準総合センター(NMIJ)が共同で主催する「計測標準フォーラム第4回合同講演会」が11月22日、東京都の大田区産業プラザPiOで開催される。

約500名の計量計測関係者が集まる、大規模な講演会である。遠隔校正や不確かさの向上、高精度化といった最新技術から、トレーサビリティや(独)製品評価技術基盤機構認定センター(IAJ)の確立や標準物質の拡大など管理運営システムに至るまで、計測標準の最新情報を幅広く伝える。現況を幅広く伝える。計測標準は他分野へ広がっており、今年改訂

する内容を網羅し、最新情報が得られる絶好の機会であるとして、多くの参加を期待している。

講演は2会場で、認定ユーザー・トレーサビリティセッションと日本NCSLIセッションを同時に実施する。別会場ではNMIJの各分野がボ

スタ発表に参加、最新の研究を紹介する。

主催者は計量計測に関

2つのブロック会議に提出された議題のうち東北北海道ブロックからの計量記念日関連事業の「何でもはかってみようコンテスト」の募集では初年度10ほど、今年度は50ほどが集まっているが、小学校等への応募依頼で大義名分が立つて円滑に行くようにするため経済産業省あるいは文部科学省からの県や市への文書による依頼があるという提案が出された。

この事業が次年度以降も継続されるのかどうかは、一部の人の頑張りだけの依拠する方法でない上手な手段を講ずることにかかっているようである。(3)面に続く

とうきょうの計量

④⑤面

温度の校正はSATO

株式会社 佐藤計量器製作所

〒206 宮城工場 校正技術課

〒206 宮城工場 校正技術課

■技術問答先 宮城工場 校正技術課 011-811-2110
本社 011-550-1111 大阪 06-6490-1911 札幌 011-550-1005
仙台 011-811-2111 高松 057-131-1111 岡山 086-251-1111
福岡 092-451-1111
■本社 1-501-4001 本社 1-506-0001 宮城工場